

# AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

Skin Cancer (2000.05) 15巻1号:85～87.

臀部に生じた基底細胞癌の1例

橋本 任, 伊藤文彦, 山内利浩, 柏木孝之, 眞鍋 公, 浅野  
一弘, 山本明美, 飯塚 一

## BCC on the buttock

臀部に生じた基底細胞癌の1例

橋本 任\*<sup>1</sup> 伊藤 文彦\*<sup>1</sup> 山内 利浩\*<sup>2</sup> 柏木 孝之\*<sup>2</sup>  
眞鍋 公\*<sup>2</sup> 浅野 一弘\*<sup>2</sup> 山本 明美\*<sup>2</sup> 飯塚 一\*<sup>2</sup>

### Basal cell carcinoma on the buttock

Makoto HASHIMOTO, Fumihiko ITO, Toshihiro YAMAUCHI, Takayuki KASHIWAGI, Akira MANABE, Kazuhiro ASANO, Akemi YAMAMOTO, Hajime IIZUKA

**Summary :** We present a case of basal cell carcinoma on the buttock. The patient was a 30-year-old man who noticed a gradually enlarging asymptomatic dark reddish nodule of one year duration on his right buttock.

Histopathology showed solid type basal cell carcinoma with markedly pigment-laden tumor cells. Surveillance of the literature disclosed 25 Japanese basal cell carcinoma cases of gluteal ~ perianal location, among which our case was the youngest one. [*Skin Cancer (Japan)* 2000 ; 15 : 85-87]

**Key words :** Basal cell carcinoma, BCC, Buttock

### はじめに

基底細胞癌(以下BCC)は、露出部位、特に顔面に好発し、臀部の発生は稀である。今回、我々は臀部に生じたBCCの1例を報告し、併せて本邦皮膚科領域で報告された肛門周囲を含む、臀部のBCC 25例について、若干の考察を加えた。

### 症 例

患 者：30歳，男性  
初 診：1998年6月22日  
主 訴：臀部の暗赤色の結節  
家族歴：母親が腎不全。他は特記すべきことなし。

既往歴：特記すべきことなし。

現病歴：初診の約1年前に臀部の小結節を自覚した。その後、徐々に増大してきたため、当科を受診した。

現 症：右臀部、肛門から4cmの部位に12×6mm大の弾性硬、ドーム状に隆起した、暗赤色の結節を認める(図1)。

治療および経過：BCC，粉瘤，付属器腫瘍な

\*<sup>1</sup> 名寄市立総合病院皮膚科

\*<sup>2</sup> 旭川医科大学皮膚科学教室



図1. 初診時臨床像

どを疑い、1998年7月23日、局所麻酔下に腫瘍辺縁より約3mm離し、全摘した。術後1年7ヵ月現在、再発は認めない。

病理組織学的所見：腫瘍巣は一部表皮と連続しているが大部分は真皮下層にまで増殖している(図2)。一部では角化および囊腫様構造を認め、色素沈着も著明にみられる。腫瘍巣は充実性で、辺縁部は柵状配列を示す(図3)。腫瘍を構成する個々の細胞は、細胞質に乏しく、均一な好塩基性に染まる円形ないし楕円形の核を持つ基底細胞様細胞で、分裂像、異形性は少ない。以上の所見より、充実型のBCCと診断した。

### 本邦における臀部BCCのまとめ

#### 1. 報告例数

我々が調べ得た限りでは、臀部以外の部位との多発例4例を含め25例報告があった<sup>11)~12)</sup>。BCC全体に占める臀部のBCCの割合は、0.39~1.6%であった<sup>3)10)13)</sup>。

#### 2. 性差と年齢

25例中、男性は15例、女性は10例で、男女比は1:0.67であった。診断時平均年齢は、72.4歳で、男女別では、男性は69.9歳、女性は76.0歳であった。

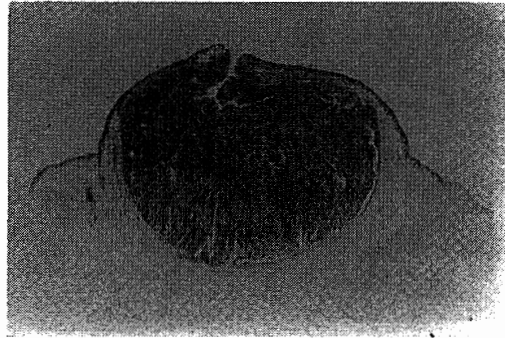


図2. H.E.染色弱拡大像

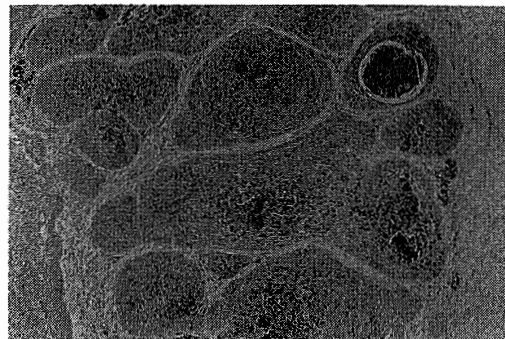


図3. H.E.染色強拡大像

#### 3. 臨床型

記載のあった18例19個中、結節型が14個(73.7%)、斑状強皮症型が1個(5.3%)、表在型が4個(21.0%)であった。

#### 4. 組織型

組織型の明らかな18例19個のうち、充実型が12個(63.1%)と最も多く、次いで表在型が4個(21.1%)、混合型(充実型+角化型+腺様型+囊腫型+斑状強皮症型<sup>9)</sup>、充実型+腺様型<sup>9)</sup>および充実型+囊腫型+腺様型<sup>7)</sup>が3個(15.8%)の順であった。充実型は、混合型も合わせると78.9%を占めた。

### 考 察

本邦における臀部のBCCの報告例は、1984年、井階らによる尾骨部発生例が初めてと思われる<sup>1)</sup>。以後の報告も我々が調べ得た限りでは25例を数えるに過ぎない。石原は、1987年から

1991年にかけて行った全国アンケートの結果を集計し、全2806例のうち、BCCの発生部位は、顔面1986例(71.0%)、頭、耳、顎・項、前腕、手、前胸併せた露出部位合計2404例(85.6%)、体背108例(3.8%)、臀部は11例(0.39%)と報告している<sup>13)</sup>。

一般にBCCは高齢者に多く、石原の集計でも、20歳以下は19例(0.6%)、30歳代87例(3.1%)、40歳代214例(7.6%)、50歳代489例(17.4%)、60歳代722例(25.7%)、70歳以上1245例(44.4%)と高齢になるにつれ、その頻度は高い<sup>13)</sup>。

臀部に限っても、25例中、自験例30歳以外は全て50歳以上で、50歳代1例(4.0%)、60歳代7例(28.0%)、70歳以上が最年長91歳を含めて16例(64.0%)であり、全BCCと同様、高齢者に好発している。自験例は、本邦で報告された臀部のBCCとしては、最年少であった。

自験例の臨床型は結節型に分類され、また、病理組織学的には充実型の組織像を呈した。充実型BCCは、組織学的に最も多い型ではあるが、体幹では表在型の頻度が相対的に高くなることが知られている。旭川医大の集計でも、全体のBCCでは混合型も含む結節型が70%、表在型が13%であるのに対し、体幹では表在型が40%以上を占めている<sup>14)</sup>。一方、臀部では、自験例も含めて結節型75.0%、表在型20.0%であり、体幹と異なり、比較的結節型の頻度が高いことがわかる。

今山は、BCCにおける発生部位による臨床型の違いについて考察し、毛包密度の高い顔面では、林立する毛包に沿って腫瘍塊が下降するため結節型になること、一方、毛構造の発達の悪い躯幹四肢では、表皮基底面に沿って水平に腫瘍が広がるため表在型BCCになりやすいと述べている<sup>15)</sup>。臀部では、特に男性では剛毛が多いことにより、また、粘膜に近い肛門では結合組織が疎なためより深く浸潤することが想定さ

れ、これらの要因が臀部、肛門のBCCに結節型が多いことを説明するかもしれない。

## 文 献

- 1) 井階幸一, 友野仁, 平本道昭, 他: 肛門周囲に生じた基底細胞上皮腫. 日皮会誌, 94:1183, 1984.
- 2) Ochiai, T., Suzuki, H., Morioka, S.: Basal cell epithelioma with giant tumor cells: light and electron microscopic study. J. Cutan. Pathol., 14: 242-247, 1987.
- 3) 山崎直也, 佐々木英也, 石原和之: 臀部に生じた基底細胞癌の1例. 皮膚臨床, 33:1557-1560, 1991.
- 4) 梅木薫, 菅原隆光, 花田勝美, 他: 長期日光曝露により臀部に多発性基底細胞上皮腫をみた一例. 日皮会誌, 102:281, 1992.
- 5) 中村敬, 笹瀬見弘, 市橋正光: 臀部に発生した有茎性茸状基底細胞上皮腫の1例. 皮膚臨床, 36: 85-88, 1994.
- 6) 大浦博明, 前川直輝, 中川浩一, 他: 慢性砒素中毒による多発性基底細胞上皮腫の1例. 日皮会誌, 107:338, 1997.
- 7) 杉本圭子, 野村佳弘: 臀部に生じた基底細胞上皮腫の1例. 日皮会誌, 108:766, 1998.
- 8) 西浦清一, 近藤亮: 痔瘻の術後瘢痕部に生じた基底細胞癌. 皮膚臨床, 40:1838-1839, 1998.
- 9) 高島有理, 佐藤俊, 小川俊一, 他: 肛門周囲に発生した基底細胞癌の2例. 皮膚臨床, 41:137-141, 1999.
- 10) 濱田尚宏, 名嘉真武國, 橋本隆: 肛門に発生した基底細胞上皮腫の1例. 臨皮, 53:659-661, 1999.
- 11) 磯貝善藏, 苅谷清徳, 後藤章夫, 他: 長期間にPUVAまたはシクロスポリン内服により治療を受けた乾癬患者にみられた多発性規定細胞腫の2例. 日皮会誌, 109:1356, 1999.
- 12) 宮田美穂, 飯島茂子: 肛門に生じた基底細胞上皮腫の1例. 日皮会誌, 109:1374, 1999.
- 13) 石原和之: 全国アンケートの集計と説明. Skin Cancer, 9(Special Issue): 80, 1994.
- 14) 柏木孝之: 両腋窩に生じた基底細胞癌の1例—旭川医大皮膚科およびその関連施設における基底細胞癌の集計—. 臨皮に現在投稿中.
- 15) 今山修平: 基底細胞癌. 皮膚臨床, 36:971-976, 1994.